

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・工業技術基礎	単位数	4	担当者	秋山・高木・瀧澤・古畑・保科
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----------------

1、教科書・副教材

工業技術基礎（実教出版）

2、科目の目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸活動を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を身に付ける。

(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 工業技術に関する課題を発見し工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。

(3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

- ・木材加工に関する基礎的な技術を体験させる。
- ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。
- ・刃物の原理を理解させ、機械や道具を適切に活用させる。(安全教育の徹底)

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 安全教育 (以下の3課題をローテーション学習) A 木材加工の基礎知識 木材加工の基礎的な知識と技術 相欠きつきを使った立体パズル B デザインについて学ぼう 色彩構成、立体造形 デザインの考え方と意味 デザイン製図の基本とその技法 C 建築模型について学ぼう 建築分野の基礎的な技術 住宅模型の製作 スチレンボードを加工し、平屋建て住宅を製作できる。 木工工具の扱い方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 安全教育 ①刃物の調整 ②小物作品の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・設計図面について ・部材の木取り ・部材の加工 ・部材の組み立て ・作品の仕上げ 機械工具の使用と安全 	<ul style="list-style-type: none"> ①作業の安全 ②刃物の原理と研磨の理論 ①バとかけの研磨 ②小物木工作品の製作 ・機械や道具の適切な活用方法 (安全教育) ①木取り寸法⇒部材加工 ・設計図面の理解と木工機械の操作実習 ①部材を仕上げ寸法に加工 ・ほぞ、溝、組み手など ①各部材の組み立て 	70	
後期	<ul style="list-style-type: none"> ※テーマごとにまとめや成果発表を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ① 小物作品の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・部材の加工 ・部材の組み立て ・作品の仕上げ ①次年度作品の設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の意義について理解させ、住宅設計に取り組み、スチレンボード等を使って平屋建て住宅の模型製作を行い、住宅の基本的な構造と間取りについて学習する。 ①作品の仕上げ加工 ・かけによる調整、ペーパーによる研磨、塗装 ①完成した作品を展示発表 ・機械や道具の適切な活用（手押し・自動かん盤・丸鋸・レーザー加工機など） ①班別に実習 設計図面に従い、部材の木取り ①コース別に実習 	70	

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・機械や道具を適切に活用することができ、実習の内容を理解して作品に表現することができたか	レポート
思考・判断・表現	・機械や道具の基礎的な活用ができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

機械や道具の使用法を理解して、安全に作業をする。個性のある作品を造る。

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・製図	単位数	2	担当者	横沢・秋山
---	----	-------	-------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

インテリア製図（実教出版）

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本産業規格に基づいた製図の基礎や図学について理解させる。 ・ 製作図や設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。 ・ レタリングやトレースに関する知識と実践的な技術を習得させる。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	①製図用具の使い方	①製図用具の正しい使い方を理解させる。	35	
	5月	②線の練習	②線の基本的な書き方や種類を理解させる。		
	6月	③第三角法投影図の理解	③第三角法投影図の理論を理解させる。		
	7月	④第三角法投影図の理解 ⑤平面図法と等角図法	④第三角法投影図を使いイスの3面図を理解させる。 ⑤図法を理解させ、図面に着色をさせる。		
	8月	⑥トレース	⑥課題図を早く正確にトレースさせる。		
	9月	トレース	課題図を早く正確にトレースさせる		
後 期	10月	①日本産業規格の理解	①製図に関する日本産業規格について理解させる。 ※文部科学省後援トレス技能検定実施	35	
	11月	※検定実施（10月） ②家具の基礎製図	②実在する小箱の寸法を測定し、第三角法投影図と等角投影図を用いて、小箱の設計製図を完成させる。		
	12月	③図面の着色	③完成した図面に着色させる。		
	1月	④建築装飾のデザイン	④建築図面に関する植栽の様式や形を着色させる。		
	2月	⑤平面表示記号	⑤平面図に使われる表示記号を書かせる。		
	3月				

4、評価の方法・観点

		評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・ 製図における文字、図面、線の意味を理解し、デザインの感覚により、適切に表現することができたか		課題提出
思考・判断・表現	・ 製図用具を適切に活用することができたか		設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・ 積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか		実習態度・出席日数

5、学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表する。

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・工業情報数理	単位数	2	担当者	久保田・瀧澤
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	--------

1、教科書・副教材

精選工業情報数理（実教出版）

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用の基礎となる様々な情報手段の特性を理解させる。 ・望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成する。 ・課題や目標に応じて情報手段を適切に活用することのできる能力を育成する。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	① 到達目標の明確化	・2年次の到達目標を定める。	35	
	5月	②情報モラル ③ネットワーク ④セキュリティ	・使用教室，ネットワークシステム，インターネット，モバイル情報機器（利用する場合のモラルについて） ・LAN，WAN，インターネットの発展利用 ・グループウェア・イントラネットの概要 ・ネットワーク犯罪とセキュリティ		
	6月	①文書作成ソフト(Word)で、文書作成の基礎・基本を学習する。	・書式の設定方法 (用紙サイズ、余白、フォント、ポイントなど)		
	7月	②日本語ワープロ検定過去問を使用し、タイピング練習。 ③文書デザイン検定練習 ※文書デザイン検定	・日本語ワープロ検定過去問を使用し、文字入力能力を高める ・図形、画像の挿入・編集の仕方を習得する ・文書デザイン検定過去問を使用した実践的練習 ※文書デザイン検定により成熟度確認		
	8月	①表計算ソフト(Excel)で、表作成、計算処理の基本を学ぶ。	・Excelの使い方 (構造、セル、グラフ、関数、罫線など)		
9月					
後 期	10月	②表計算検定過去問を使用し、検定練習を行う。	・グラフの挿入、編集 ・表計算検定過去問を使用した実践的練習	35	
	11月				
	12月	※表計算検定	※表計算検定により成熟度確認		
	1月	①プレゼンテーション実習導入	・実習等で制作した作品のプレゼンテーション ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の計画と練習 (参加者の評価型プレゼンテーション)		
	2月	②プレゼンテーション実習と発表			
3月					

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	・プレゼンテーションソフトの基礎について理解することができたか ・表計算ソフトの応用的活用について理解ができたか	実技テスト
思考・判断・表現	・計画通りに発表することができたか	製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業の参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

機器の使用ルール、モラルを理解し、各アプリの基礎的な使用方法をマスターする中で学習を進める。

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・インテリア計画	単位数	2	担当者	瀧澤
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

インテリア計画（実教出版株式会社）

2、科目の目標

- ・ インテリア計画に関する基礎的な知識と考え方を習得する。
- ・ 身の回りの生活全般と関連性を持たせることで、実際に活用する能力と態度を育てる。
- ・ インテリア用語、人体寸法、必要動作スペース、各寸法などについて理解する。

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	①インテリア計画の概要 ②インテリアと人間工学	35	インテリア計画の概要 インテリアと人間工学
	5月	③インテリアへの応用 ④インテリアの安全		
	6月	※定期考査実施 ①寸法計画と規模計画 ②空間の計画		
	7月	③人体寸法と設計 ④配置と動線		
	8月	①インテリアエレメント ②インテリアの造形と心理 人間の感覚知覚と造形 ③色彩		
9月	※定期考査実施	④形態の概念、分類、装飾の役割を理解する ⑤テキスチャーの意味と意義を理解する ・ 伝統的、インテリアの部位、空間部位の各テキスチャーと、そのあり方を理解する ※学習内容の定着度を確認	35	各種空間の設計 インテリアエレメント 人間の感覚知覚と造形
10月	④形態 ⑤テキスチャー			
11月	※定期考査実施			
12月	①インテリアの環境 ・ 屋外環境 ・ 屋外環境			
1月	※定期考査実施			
後 期	2月	・ 室内環境 ・ 室内環境基準、湿り空気線図を理解する ※学習内容の定着度を確認	35	インテリアの環境
	3月			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・ 生活の中でのインテリア計画の必要性が、これまでの知識を踏まえ理解することができ、各単元について理解し、活用することができたか。	定期考査
思考・判断・表現	・ 扱ったインテリア計画について理解することができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・ 授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数 授業に取り組む姿勢や意欲

5、学習にあたっての注意とアドバイス

家具や内装などのインテリア、建築物などの基礎を自身の身の回りの生活と繋げて学ぶことができるよう、事例提示や課題設定を行う。
また、各単元の終了後、確認課題を出し知識を深めていく。

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	工業・インテリアエレメント生産	単位数	2	担当者	古畑
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

インテリアエレメント生産（海文堂出版）

2、科目の目標

- ・木材の基本的な性質について理解
- ・木材の活用方法や、家具の分類および構造について理解
- ・木材加工に関する基礎や切削の原理、木材の接着や塗装について理解
- ・家具の強度の考え方を理解させる
- ・建具、テキスタイル製品、壁層材料、照明の用途、種類および構造について理解させる。
- ・木工機械の種類と特徴、安全な作業方法、NCの特徴、プログラミング初歩を理解させる。
- ・安全教育

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・作業と安全 ・木材と加工 ※学習内容の定着度を確認	以下の項目を理解する ①作業と安全 ②木材加工の基礎・切削の原理 ③木材の性質と構造（木材の構成、成長と年輪、辺材心材、一般的性質） ④木質材料 ⑤木質材料	3 5	①②③
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・木材と加工 ・材の加工と組立 ・木材の表面処理 ※学習内容の定着度を確認	⑥手工具と加工 切断、成形、接合、せん孔、塑性加工		④⑤⑥
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・加工のための測定 	⑦板の種類と用途 合板、ファイバーボード、パーティクルボード 手工具と切削の原理		⑧⑨⑩
	7月	※学習内容の定着度を確	⑧木材加工の基礎（塑性、組み立て） ⑨接着（接着の基礎、接着剤） ⑩塗装の目的 木製品塗装、塗料の種類、塗装用具		⑧⑨⑩
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアエレメントの構造 ・インテリアエレメントの構造 ※学習内容の定着度を確	⑪測定器具と使用方法 ⑫家具の分類、種類 ⑬部材の接合、平板の構造 ⑭椅子の構造と機能の種類 ⑮ベッドの構造と機能の種類 ⑯テーブルの構造と機能の種類 ⑰デスクの構造と機能の種類 ⑱収納家具の構造と機能の種類 ⑲収納家具の構造（引き出しや戸の構造） ⑳和家具の種類と特徴や構造 ㉑作業の安全		⑪⑫⑬⑭⑮
9月	①インテリアエレメントの構造 ※学習内容の定着度を確認 ※定期考査実施	①インテリアエレメントの構造 ※学習内容の定着度を確認 ※定期考査実施	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑		
後 期	10月	生産技術	以下の点を理解させる ①家具の強度 ②建具（分類、内部用建具、外部用建具、金具） ③テキスタイル製品（カーテン） ※学習内容の定着度を確認 ④テキスタイル製品（カーテン、カーペット） ※学習内容の定着度を確認 ⑤テキスタイル製品（ホームリネン） ⑥窓回り部品（カーテン、スクリーン、ブラインド）	3 5	①②③④
	11月				①②③④
	12月	生産技術	①照明 光源の種類 ②壁装材料（種類、特性） （照明分類、器具と取り付け位置、防災照明） ※学習内容の定着度を確認		⑤⑥①②
	1月				⑤⑥①②
	2月		①木材加工機械と安全 ②木材加工機械（加工種類と機械、特徴） ※学習内容の定着度を確認 ③木材加工機械（加工種類と機械、特徴）		①②③
3月	※定期考査実施	①数値制御工作機械 （NCルーターの作用、加工、プログラミング） ②数値制御工作機械（プログラミング演習） ※学習内容の定着度を確認	①②		

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元について理解することができたか ・室内パーツと工作機について理解できたか 	定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアエレメントの知識と工作機の基礎的な活用ができたか 	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか 	出席日数・授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

単元毎に小テストを実施し学習定着を図る。